

メタセコイア

2024.1
Vol.62

- も く じ -

- 1 腎臓内分泌内科診療科長
年頭のご挨拶
- 2 腎臓内分泌内科 紹介
- 3 腎臓内分泌内科の受診方法
- 4 5 ニュースレター
「がんゲノム医療連携病院」の指定を受けて



腎臓内分泌内科
診療科長
森 建文

❀ 年頭のご挨拶

平素は登録医の先生方におかれましては東北医科薬科大学病院をご支援いただき、誠にありがとうございます。新年あけましておめでとうございます。

2022年4月より前任の佐藤賢一統括病院長より患者支援・医療連携センター長を引き継いでおります腎臓内分泌内科の森 建文(もり たけふみ)と申します。

COVID-19 感染症が5類になり、日常がいくらか戻ってきました。しかしながら、COVID-19感染症患者様は今でも当院に入院され重症化される患者様もいらっしゃいます。また、インフルエンザ感染症も増えております。日頃、重症化しやすい患者様を管理させていただいておりますので、引き続きクラスター感染が起きぬ様に日々努力して診療に取り組んでいきたいと考えております。

2022年4月に東北医科薬科大学医学部1期生が卒業し、全国の病院に臨床研修に出ておりましたが、多くの先生が2024年4月より専攻医として当院に戻ってくることになりました。また、他大学出身の先生方にも当院で専攻医を志望される先生が増え、若い医師によりさらなる活気が期待されます。本学医学部の使命である「地域医療を支える医師の育成」を実践する時がきました。今後、登録医の先生方とともに患者様の幸福のためにしっかり地域を支えられる医師を育成して参りたいと考えております。

選定療養制度が導入され、ますます登録医の先生方の連携が重要になって参りました。患者支援・医療連携センターでは予約体制を見直すとともに、先生方からのご紹介患者様を少しでもスムーズに受け入れさせていただくため、受け入れ困難な診療科があっても極力代替え診療科を探し対応させていただいております。また、救急センターのベッド拡張も予定するとともに医師の働き方改革を遵守しながら、救急受け入れ体制向上も計画しております。登録医の先生方へ患者様を極力スムーズにお返しできる様、退院支援や患者支援にもますます力を入れていく所存です。

東北医科薬科大学病院は地域の先生方に育てていただいている病院でございます。ご不明な点やご意見等ございましたら、お手数ですが患者支援・医療連携センターや私までフィードバックをいただきます様、お願い申し上げます。対応を考え医療連携の向上に努めたいと考えております。

今後とも東北医科薬科大学病院と患者支援・医療連携センターをご支援いただきます様、よろしくお願ひ申し上げます。

腎臓内分泌内科

東北医科薬科大学病院腎臓内分泌内科は東北医科薬科大学病院・若林病院含め20名(うち女性医師7名)の常勤医師が所属しています。入院ベッド定数は今年度45床に増床され、より多くの患者様に対応できるようになりました。当科は腎臓・内分泌疾患を患者様の総合内科診療を行うことをモットーとしていますので、腎臓病・内分泌・電解質疾患をも

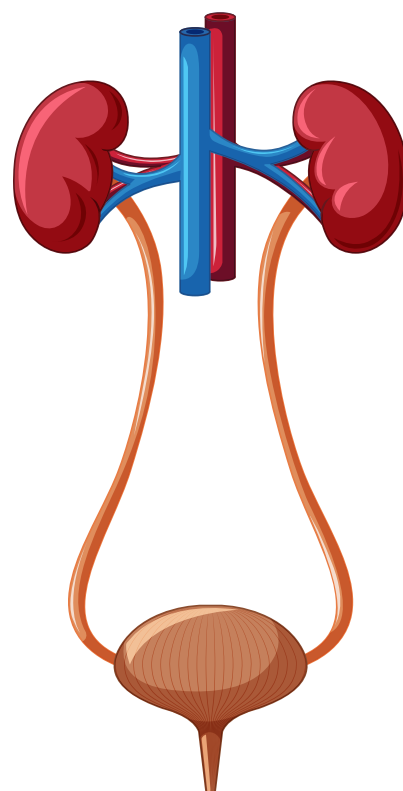
つ患者様の他科関連疾患を始め、どの科に紹介してよいか判断がむずかしい症例を受け入れております。他科で受け入れ困難症例も他科と連携しながら一時的に当科で対応している症例もあります。急患等何かございましたら、診療科長 森 建文もしくは腎臓内分泌内科外来、当科当番医、医療連携室まで気軽にご連絡いただければ幸いです。

当科の得意な診療

- 高齢慢性腎不全患者の生きがいを支援しながら診療しています(往診などの在宅医療にも対応しています)。
- 患者様の生きがいに合った腎代替療法(血液透析・腹膜透析・腎移植)にむけて提案しています。(腎移植の手術は他院に依頼していますが移植後管理は当院でも可能。)
- 腹膜透析導入患者数は日本で有数(大学病院では日本一)です。
- 多発性嚢胞腎の腎嚢胞抑制治療(サムスカ導入)や東北でほとんど行われていない腎動脈塞栓術による腎嚢胞縮小治療を放射線科と共同で開始しました。
- ほとんどの内分泌疾患に対応していますが、甲状腺疾患県下随一の入院施設で甲状腺クリーゼに対応しています。
- 透析患者様の他科疾患をサポートしています。近年、原則透析を理由には当院受け入れをお断りしておりません。
- 他科受け入れ困難患者を診察させていただいております。

ご紹介いただきたい患者様

- 血尿・蛋白尿(試験紙でも可)
- 腎機能低下(特にeGFR 45ml/min.以下)
- 電解質異常、浮腫、乏尿・多尿、食欲不振
- 難治性高血圧症(3剤以上用いる原因不明の高血圧)、若年高血圧
- 血漿アルドステロン濃度(CLEIA法)/血漿レニン活性比100以上
- ACTH、コルチゾール、カテコラミン等の異常
- 甲状腺異常
- 在宅医療を要するような終末期患者(在宅医と連携し支援いたします)



新患外来受付体制変更

新患予約は月曜～金曜日連日可能となりました。当日予約外 walk-in にも対応しておりますが、予約優先のため待ちいただくことを患者様にお伝えください。16時頃以降の walk-in や急患でお越しになる場合はご連絡いただければ幸いです。

腎臓内分泌内科の受診方法

腎臓内分泌内科を初めて受診される場合は**予約制**となります。



緊急性が高く、当日受診を希望される場合は、
腎臓内分泌内科外来へ直接お電話ください。



■ 予約日 ■

腎臓

月～金曜日

内分泌

月曜日、火曜日、木曜日、金曜日

- 疾患によって「腎臓」「内分泌」に担当医が分かれています。
- 診療科の選択に迷った場合は、連携室にお電話にてお問い合わせください。
- 予約優先ですが、当日受診も可能です。

■ 予約方法 ■

STEP
01

診療予約申込書に紹介状と採血データを添付のうえFAX送信してください。

受付時間 平日 8:30 ~ 17:00 FAX 0120-25-9121 (連携室直通)

17時以降や時間外、休日のFAX予約については翌診療日受付になります。

STEP
02

連携室にて診療予約申込書を受け取り次第、予約調整いたします。

STEP
03

FAX到着後15分程度で予約票を返信いたしますので、
患者さんにお渡しください。

- 予約申し込みは、医療機関よりFAXでお願い致します。
- 予約の空き状況を確認したい場合は連携室にお電話にてお問い合わせください。

☎ 022-388-9593 (連携室直通)

■ 当日お持ちいただくもの ■

- 保険証
- お薬手帳
- 紹介状
- 予約票





外来化学療法センター NEWS LETTER

外来化学療法センターの近況報告 当院では、がんの薬物療法やがん以外の疾患に対する生物学的製剤療法を安全かつ快適に実施するために、外来化学療法センターが設置されております。本誌面においては外来化学療法センターの最近の話題をお知らせいたします。

「がんゲノム医療連携病院」の指定を受けて



がん診療推進・院内がん登録委員長
外来化学療法センター長
下平 秀樹

2023年12月、当院は東北のがんゲノム中核拠点病院である東北大学病院の連携病院として指定されることとなりました。これにより、がんにおける多数のがん関連遺伝子を同時に解析するがん遺伝子パネル検査を当院からも直接提出することができるようになります。実際に検体を提出できるようになるまでにはまだ準備が必要ですが、開始可能となり次第またお知らせをさせて頂く予定です。

本邦においては、2018年4月にがんゲノム医療中核拠点病院11施設が指定され、各中核拠点病院によりそれぞれの連携病院が指定されました。また、2019年6月にはがん遺伝子パネル検査が保険

適用となり、がんのゲノム情報に基づいて効果が期待できる薬剤を探索するいわゆるがんゲノム医療が保険診療として実施できるようになりました。さらに2019年9月には新たにがんゲノム医療拠点病院が指定され、がんゲノム医療を牽引する施設が拡充されました。当院は当時、がん診療連携拠点病院ではなかったため、がんゲノム医療連携病院に申請することができませんでした。2021年より地域がん診療連携拠点病院に指定され、がんゲノム医療にも参画できる資格を得ることができました。

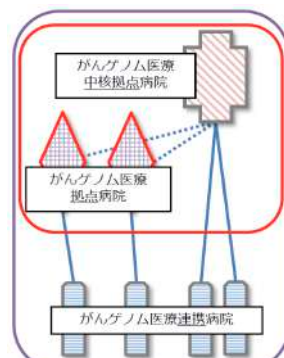
一方で、2018年1月から遺伝子診療部を組織し、2021年7月から遺伝外来を開設しました。がんゲノム医療を行う上では、薬剤選択の目的で実施したがんのゲノム解析により遺伝性疾患が見つかることがあるため、遺伝カウンセリングなどの遺伝子診療を行える体制を整えることが求められています。また、がんゲノム医療体制整備ワーキンググループを組織し、東北大学病院の個別化医療センターを見学するなど情報収集をしつつ院内の組織づくりをしてきました。本年度、東北大学病院にがんゲノム医療連携病院の申請を行い、審査の結果、指定を得られる

こととなりました。

東北のがんゲノム医療が可能な病院は、中核拠点病院として東北大学病院、拠点病院として弘前大学医学部附属病院と山形大学医学部附属病院、連携病院として岩手医科大学附属病院、秋田大学附属病院、福島県立医科大学附属病院、宮城県立がんセンター、山形県立中央病院、日本海総合病院が指定されています。本年度、当院と石巻赤十字病院がそれに追加されることとなります。これまでは、当院で診療中の方ががん遺伝子パネル検査を希望された場合、東北大学病院に紹介し受診していただく必要がありました。しかし、がんゲノム医療連携病院になると、検体提出は当院から直接行うことができ、結果の説明も当院で受けられるため、東北大学病院を受診する必要はありません。ただし、検査結果を解釈してレポート作成を行うエキスパートパネルは中核拠点病院である東北大学病院にお願いする必要があり、オンライン会議に主治医らが出席して検討が行われます。

近年、がん遺伝子パネル検査を受ける比率が、がんゲノム医療中核拠点、拠点、連携の各病院とそれ以外の病院で格差が生じているということが指摘されております。

当院でがん治療を受ける皆様が先進的な医療を受ける機会を奪わないよう、今後体制を整備してがんゲノム医療に積極的に参画していきたいと考えております。



がんゲノム中核拠点病院又は拠点病院が、がんゲノム医療連携病院を選定する。

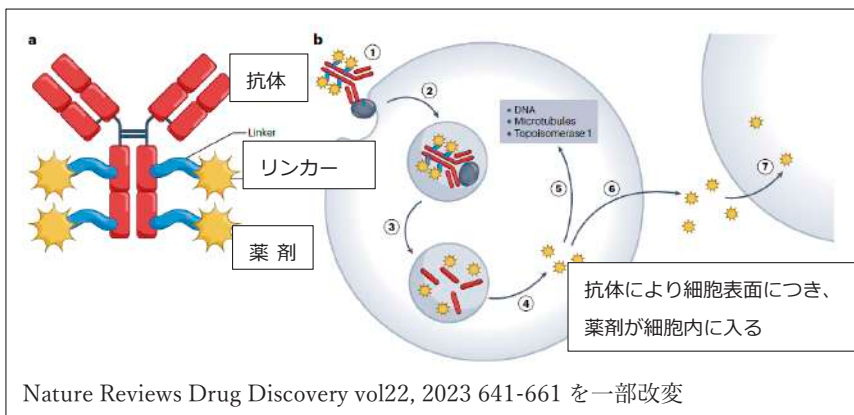
	患者説明 検体準備	シーケンス実施	エキスパートパネル	レポート作成	患者説明 (結果)	治療	研究開発	先進医療・治療	人材育成
	患者説明 検体準備	シーケンス実施	専門家会議	レポート作成	患者説明	治療	研究開発	先進医療・治療	人材育成
中核拠点	必須	外注可	必須	必須	必須	必須	必須	必須	必須
拠点	必須	外注可	必須	必須	必須	必須	連携	連携	連携
連携	必須	外注可	中核拠点あるいは拠点病院の会議等に参加		必須	必須	連携	連携	連携



がん薬物療法トピックス

最近、抗体薬物複合体というタイプの抗がん薬が開発されています。抗体薬物複合体は、抗体に抗がん剤などの薬を結合させたバイオ医薬品です。抗体が特定の分子をもつがん細胞に結合する性質を利用して、薬を直接がん細胞まで運び、そこで薬を放出することで、抗腫瘍効果を発揮します。そのため、標的とする細胞や組織に対する副作用を回避しやすく、少ない薬物投与量でも効果が期待できるなどのメリットがあります。薬物と抗体およびリンカーと呼ばれるつながりの部分から構成されています。抗体には、抗HER2

抗体であるトラスツズマブのように、分子標的薬として細胞増殖のシグナルを阻害する効果とドラッグデリバリーの両方の目的をもつ場合と抗Nectin-4抗体であるエンフォルツマブのように尿路上皮に高い特異性をもって発現しているタンパク質を標的としてドラッグデリバリーだけを目的としている場合があります。現在様々な組み合わせの抗体と薬物の複合体が開発段階にあり、今後のがん薬物療法の進歩に大きく寄与する薬剤であると期待されています。本邦で保険適用となっている薬剤のリストを下記に示します。



商品名	抗体	標的分子	薬物	対象疾患
カドサイラ	トラスツズマブ	抗 HER2	エムタンシン	HER2 陽性乳癌
エンハーツ	トラスツズマブ	抗 HER2	デルクステカン	HER2 陽性乳癌、胃癌
マイロターグ	ゲンツズマブ	抗 CD33	オゾガマイシン	急性骨髄性白血病
アドセトリス	ブレンツキシマブ	抗 CD30	MMAE	CD30 陽性リンパ腫
ベスボンサ	イノツズマブ	抗 CD22	オゾガマイシン	急性リンパ性白血病
ポリヴィ	ポラツズマブ	抗 CD79b	MMAE	B 細胞性悪性リンパ腫
ブレンレブ	ペランタマブ	抗 CD269	MMAE	多発性骨髄腫
パドセヴ	エンフォルツマブ	抗 Nectin-4	MMAE	尿路上皮がん
トロデルヴィ	サンツズマブ	抗 Trop-2	SN-38	トリプルネガティブ乳癌

MMAE: モノメチルアウリスタチン E, SN-38: イリノテカン誘導體